

科目名	地域・公衆衛生看護学特講Ⅱ			分野・必選別・単位数	専門科目 (地域・公衆衛生看護学)		選択必修	2単位
担当教員	◎教授 山崎恭子						科目ナンバー	T2C122
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義	
授業の概要	地域・公衆衛生看護学領域における基本的な概念、諸理論、モデルについて説明できる。さらにそれらを活用し、対象のアセスメント、効果的な介入方法を考察することで看護実践能力を養う。							
授業の到達目標	①地域・公衆衛生看護学領域の基本概念であるプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、コミュニティエンパワメントについて実例を用いてプレゼンテーションができる。 ②個人・家族のアセスメントに関する理論・モデルについて実例を用いてプレゼンテーションができる。 ③地域・集団への介入・援助方法に関する理論・モデルについて実例を用いてプレゼンテーションができる。							
授業計画	回数	担当者			行動目標			
	1	山崎 恭子	教授	科目概説 本科目の概要、授業目標を説明できる。				
	2	山崎 恭子	教授	地域・公衆衛生看護学領域の基本概念であるプライマリヘルスケアを説明できる。				
	3	山崎 恭子	教授	地域・公衆衛生看護学領域の基本概念であるヘルスプロモーションを説明できる。				
	4	山崎 恭子	教授	地域・公衆衛生看護学領域の基本概念であるコミュニティエンパワメントを説明できる。				
	5	山崎 恭子	教授	個人・家族のアセスメントに関する理論・モデルであるライフサイクル理論について説明できる。				
	6	山崎 恭子	教授	個人・家族のアセスメントに関する理論・モデルであるセルフケア理論について説明できる。				
	7	山崎 恭子	教授	個人・家族のアセスメントに関する理論・モデルであるICFモデルについて説明できる。				
	8	山崎 恭子	教授	個人・家族のアセスメントに関する理論・モデルである家族システム理論について説明できる。				
	9	山崎 恭子	教授	集団・地域のアセスメントに関する理論・モデルであるコミュニティ・アズ・パートナーモデルについて説明できる。				
	10	山崎 恭子	教授	集団・地域のアセスメントに関する理論・モデルであるプリシード・プロシードモデルについて説明できる。				
	11	山崎 恭子	教授	介入・援助方法に関する理論・モデルであるエンパワメント理論について説明できる。				
	12	山崎 恭子	教授	介入・援助方法に関する理論・モデルである社会学習理論について説明できる。				
	13	山崎 恭子	教授	介入・援助方法に関する理論・モデルであるソーシャル・サポートについて説明できる。				
	14	山崎 恭子	教授	介入・援助方法に関する理論・モデルであるPDCAサイクルについて説明できる。				
	15	山崎 恭子	教授	講義の振り返りと習熟度を確認できる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。						
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。						
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。						
教科書	講義の中で適宜紹介する。							
参考書	講義の中で適宜紹介する。							
成績評価の方法および基準	口頭発表50%、レポート50%で評価する。欠席1回ごとに5点減点する。							
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。							